

太田さんとの思い出

温 ビチャン
野村證券(株)南行徳明生寮
コニカミノルタ(株)パークアスパイアーズ
早稲田大学

いまだに信じられないですね、あのお元気な太田さんが、亡くなられたことは。私が太田さんに出会えたのは、大学2年の時、住居探しに困っていた時に、留学生支援協会のお蔭で社員寮に入ってからのことです。

社員寮に入ってから、最初の顔合わせで、太田さんは、今までの協会の歴史や、これから社員寮に入る留学生への思いを述べていただきました。元気で明るく話されている太田さんの姿を見て、「このおじさんは本当に面白い」と純粋に思いました。後でこの話を、友達になった協会留学生にしたら、彼も「確かに、太田さんは面白い人だね」と笑いながら話していたのが記憶に鮮明に残っています。

その後、私は太田さんが好きになり、協会で開催するイベントに積極的に参加することになりました。その際には、機会があれば、太田さんに話をかけたり、色んな質問をしたりしました。

いまだに覚えていることですが、電車で偶然、帰り道が太田さんと一緒に、彼と色んな話題で会話をしていました。その時に彼が「今も早稲田の演劇博物館、学生が遊びに行っているのか」とか、「昔は、10号館には、学生がいっぱい集まっていたけど、今もそうなのかな？」など、早稲田生じゃないと知れないことを色々と話していただいて、「なぜ太田さんは、こんなに早稲田に詳しいんだろう」と思っていたのが、後から彼も早稲田大学出身であることを知り、腑に落ちました。

彼は仕事上、留学生を平等に接する義務があったので、わざわざ出身校とかも明かさず、今まで仕事をされてきたのかと、後で考えて納得しました。

政治の話になるととても熱血になるのも、今考えると、やはり早稲田出身だったからだ、納得しました。(笑)

そして、縁あって彼が毎月参加されている勉強会にゲストとして誘っていただいて、韓国について話をすることもありました。過去屈指の大企業で仕事をされた後、引退されたとても知的な方々が多い勉強会でした。その日も、勉強会の帰り道で、僕が「最近山本七平の本を読んでいます」という話をしたら、彼が経済同友会時代に、山本七平を招いてセミナーを開いたときの思い出、山本七平さんと二人でした会話の内容を話してくれました。いまだに覚えているのが、早稲田駅について、私が先に降りることになったにもかかわらず、山本七平さんの話で盛り上がり、駅の改札まで彼がついてきて話をしてくださったことです。今考えると、彼のような人は、他にはいませんでした。(笑)

彼は、熱い男でした。僕は20代ですが、彼と話していると、僕のほうがもっと年寄りなのではないかと錯覚するほど、彼は熱い男でした。

その後、事情あって別の会社の社員寮に移ることになった時も、太田さんに、全ての面倒をみていただきました。本当に尽きないほど、彼にはお世話になりました。

新しい社員寮に移り、協会の活動にも、しばらく顔を出せなくなり、就職活動に専念していた時、太田さんが亡くなられたことを、協会の先輩留学生から伝えられました。その時は、とても衝撃を受けました。

2020年になり、コロナウィルスの感染拡大で、世の中が大きく変わっています。太田さんのお別れの会も、延期になりました。私は、コロナウィルスの急速な拡大で、急に帰国することになり、就職活動、学生生活、協会での活動を含めて、全て予想がつかない留学生活の局面を迎えました。

幸いに、留学生支援協会と支援企業のサポートのお蔭で、志望先の会社から内定をもらいました。内定が決まった後、すぐに協会にも国際電話で感謝の言葉を伝えました。太田さんがいてくださったら、ぜひ、その感謝の言葉を、伝えたかったです。

今は、我々協会関係者だけではなく、世界的に生活が困窮している人が増えるなど、殆どの人に対して非常に危機的な時期であると思います。コロナウィルスで、太田さんのお別れの会も延期になってしまいましたが、この事態が終息したら、ぜひ、また太田さんご家族、留学生のみなさん、協会の皆さんにお会いして、お話をする機会をいただきたく存じます。

太田さんが、人生を通じて、達成したがった、人生の目標は何だったのでしょうか。私は、彼から直接聞いたことはなかったので、推測にすぎないですが、彼が達成したかったことは、彼の行動から推測することができるのではないかと思います。

彼は、やはり「弱者、疎外された者を、助けてあげたい」という思いがあったのではないかと思います。留学生を支援するなど、30年前の日本ではなかなか主流ではなかったはずの事業のリーダーとして、こんなに長く、大変な仕事、きつい仕事を選んで、直近まで、勤勉に勤務されてこられました。お金のためなら、名誉のためなら、違う仕事もあったはずですが、彼は、わざわざ、留学生を支援する事業に取り組んでくださいました。

私が留学生活中、読んで印象に残った本に、内村鑑三が書いた『後世への最大遺物』という本があります。その本の中で、「どんな人生がいい人生なのか」に対して、内村は「勇ましく高尚な生涯」を最も価値のある人生であると述べ、「生き方」を後世へ残すことが、お金を、書作を残すことよりも意義の深いものであると、書いています。

私は、太田さんご本人の思いだったのかは存じ上げておりませんが、彼の人生が、まさに「勇ましく高尚な生涯」だったのではないかと思います。彼は、一度も嘘をついたり、自分が思っていないことを口にするなどの行為はされませんでした。

今まで、彼にお世話になった留学生は、一人二人ではなく、数百数千人にのぼると思います。異国で、異質的なものを触れながらも、何か価値のあるものを得ようと、今でも多くの学生が、世界各地で留学しています。我々留学生支援協会に所属されている留学生は、日本という国を選び、太田篤という人物にお世話になりました。そして、我々は、いつか必ず、

世界中のどこかで、人の役に立つような仕事を任される立場に立つかもしれません。もしそのようなことができれば、我々も、いずれは、「勇ましく高尚な生涯」をおくることができるかもしれません。

もし、私がそのような生涯を送ることができた、一人前の人物になったとしたら、それは

「100円、200円という少額のお金でも、
どうか節約しながら留学生活を終えようとしたときに、
太田篤という男が助けてくれたからだ。
あなたの、思いの込められた仕事のお陰様で、今の自分がある。」

というこのことを、胸に残して、忘れないようにして参りたいと思います。
太田さん、ありがとうございます。
また、どこかで、お会いしましょう。

令和2年 7月 20日
早稲田大学政治経済学部4年
温ビチャン